

NetBackup™ Web UI バックアップ アップ管理者ガイド

リリース 8.2

VERITAS™

NetBackup Web UI バックアップ管理者ガイド

最終更新日: 2019-06-28

法的通知と登録商標

Copyright © 2019 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19 「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供

されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup Web ユーザーインターフェースの概要	6
	NetBackup Web ユーザーインターフェースについて	6
	用語	8
	NetBackup Web UI へのサインイン	10
	NetBackup ダッシュボード	11
第 2 章	保護計画の管理	13
	保護計画の作成	13
	保護計画の編集または削除	17
	保護計画への資産または資産グループのサブスクリライブ	18
	保護計画からの資産のサブスクリライブ解除	19
	NetBackup の従来のポリシーについて	20
第 3 章	ジョブの管理	21
	ジョブの監視	21
	ジョブ: キャンセル、中断、再起動、再開、削除	22
	ジョブリストのジョブフィルタ	22
第 4 章	アラートの電子メール通知の設定	24
	NetBackup アラートについて	24
	アラートの電子メール通知の構成方法	25
	アラートと通知を使用するための前提条件	25
	アラートでサポートされる状態コードについて	25
	アラートと通知設定の構成	26
第 5 章	使用状況レポートと容量ライセンス	29
	マスターサーバー上のバックアップデータサイズの追跡	29
	NetBackup CA が署名した (ホスト ID ベースの) 証明書を使用した信頼で きるマスターサーバーの追加	30
	使用状況レポートのサーバーリストの構成	33
	容量ライセンスのレポートのスケジュール設定	34
	増分レポートのその他の構成	36

nbdeployutil と増分レポートのエラーのトラブルシューティング	38
--	----

NetBackup Web ユーザー インターフェースの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Web ユーザーインターフェースについて](#)
- [用語](#)
- [NetBackup Web UI へのサインイン](#)
- [NetBackup ダッシュボード](#)

NetBackup Web ユーザーインターフェースについて

NetBackup Web ユーザーインターフェースは、次の機能を提供します。

- Chrome や Firefox などの Web ブラウザからマスターサーバーにアクセスする機能。Web UI でサポートされるブラウザについて詳しくは、[NetBackup ソフトウェア互換性リスト](#)を参照してください。
- 重要な情報の概要を表示するダッシュボード。
- 役割ベースのアクセス制御 (RBAC) により、管理者は NetBackup へのユーザーアクセスを構成し、セキュリティ、バックアップ管理、または作業負荷の保護に関連するタスクを委任できます。
- NetBackup セキュリティ管理者は、NetBackup のセキュリティ、証明書、RBAC、API キー、ユーザーセッション、ロックされている NetBackup ユーザーアカウントを管理できます。
- バックアップ管理者は、サービスレベル目標 (SLO) を満たすために保護サービスを提供します。資産の保護は、保護計画、ジョブ管理、資産の保護状態の可視性を通じて実現します。

- 作業負荷管理者は、**SLO**を満たす保護計画に資産をサブスクライブし、保護状態を監視し、仮想マシンのセルフサービスリカバリを実行できます。**Web UI** は次の作業負荷をサポートします。
 - クラウド
 - Red Hat Virtualization (RHV)
 - VMware
- 使用状況レポートは、マスターサーバー上のバックアップデータのサイズを追跡します。また、**Veritas Smart Meter** に簡単に接続して、**NetBackup** ライセンスを表示および管理できます。

NetBackup Web UI のアクセス制御

NetBackup では、役割ベースのアクセス制御を使用して **Web UI** へのアクセス権を付与します。このアクセス制御には、ユーザーが実行できるタスクと、ユーザーが表示および管理できる資産が含まれています。アクセス制御は、アクセスルールを通じて実行されます。

- アクセスルールは、ユーザーまたはユーザーグループに、役割とオブジェクトグループを関連付けます。役割は、ユーザーが持つアクセス権を定義します。オブジェクトグループでは、ユーザーがアクセスできる資産と **NetBackup** オブジェクトを定義します。単一のユーザーまたはグループに複数のアクセスルールを作成でき、ユーザーアクセスを完全かつ柔軟にカスタマイズできます。
- **NetBackup** には、デフォルトの役割が 3 つ用意されています。ユーザーのニーズに最も適した役割を選択するか、そのユーザーの要件を満たすためのカスタムの役割を作成します。
- オブジェクトグループを使用して、資産やアプリケーションサーバーのグループを定義したり、ユーザーが表示または管理できる保護計画を示します。たとえば、特定の **VMware** アプリケーションサーバーを使用してオブジェクトグループを作成して、**VMware** 管理者向けアクセス権を付与できます。**VMware** 管理者が **VMware** 資産を保護するために選択できる特定の保護計画を、オブジェクトグループに追加することもできます。
- **RBAC** は、**Web UI** と **API** でのみ利用可能です。
NetBackup のその他のアクセス制御方法は、拡張監査 (**EA**) を除いて、**Web UI** と **API** ではサポートされません。**NetBackup** アクセス制御 (**NBAC**) が有効な場合は、**Web UI** を使用できません。

NetBackup ジョブおよびイベントの監視

NetBackup Web UI を使用すると、セキュリティ管理者やバックアップ管理者は、より簡単に **NetBackup** 操作とイベントを監視し、注意が必要な問題を特定できます。

- **NetBackup** セキュリティ管理者は、ダッシュボードを使用して、セキュリティ証明書や監査イベントの状態を参照できます。

- バックアップ管理者は、ダッシュボードを使用することで、NetBackup ジョブの状態を参照できます。ジョブが失敗したときに通知を受信するために、電子メール通知を構成することもできます。NetBackup では、受信電子メールを受け取ることができる任意のチケットシステムをサポートします。

保護計画: スケジュール、ストレージ、およびストレージオプションを一元的に構成する場所

保護計画には、次の利点があります。

- バックアップのスケジュールに加えて、保護計画には、レプリケーションと長期保持のスケジュールも含めることができます。
- オンプレミスストレージまたはスナップショットストレージを簡単に選択できます。
- 利用可能なストレージから選択するときに、そのストレージで利用可能な追加機能を確認できます。
- バックアップ管理者は、保護計画を作成して管理します。つまり、バックアップのスケジュールとストレージの責任を負います。
- 作業負荷管理者は、主に資産またはインテリジェントグループを保護するための保護計画を選択します。ただし、バックアップ管理者は、必要に応じて保護計画に資産をサブスクライブすることもできます。

セルフサービスリカバリ

用語

次の表では、新しい Web ユーザーインターフェースで導入された概念と用語について説明します。

表 1-1 Web ユーザーインターフェースの用語および概念

用語	定義
アクセスルール	RBAC は、ユーザーまたはユーザーグループ、役割またはアクセス権、ユーザーまたはユーザーグループがアクセスできるオブジェクトグループを定義します。ユーザーまたはグループには、複数のアクセスルールを設定できます。

用語	定義
管理者	<p>NetBackup と、NetBackup Web UI を含むすべてのインターフェースに対する完全なアクセス権を持つユーザーです。ルート、管理者、拡張監査のすべてのユーザーは、NetBackup に対して完全なアクセス権を持ちます。NetBackup Web UI の各ガイドでは、NetBackup 管理者という用語は、NetBackup への完全なアクセス権を持つユーザーも指しますが、通常は NetBackup 管理コンソールのユーザーを指します。</p> <p>「役割」も参照してください。</p>
資産グループ	<p>「インテリジェントグループ」を参照してください。</p>
資産	<p>物理クライアント、仮想マシン、データベースアプリケーションなどの保護対象データです。</p>
従来のポリシー	<p>NetBackup Web UI では、レガシーポリシーが資産を保護することを示します。レガシーポリシーは、NetBackup 管理コンソールで作成します。</p>
外部証明書	<p>NetBackup 以外のあらゆる CA から発行されたセキュリティ証明書。</p>
インテリジェントグループ	<p>指定した条件 (クエリー) に基づいて、NetBackup が保護対象資産を自動的に選択することを可能にします。インテリジェントグループは、本番環境の変更が含まれるように、自動的に最新の状態に維持されます。これらのグループは、資産グループとも呼ばれます。</p> <p>VMware と RHV の場合、[インテリジェント VM グループ (Intelligent VM groups)] タブにこれらのグループが表示されます。</p>
オブジェクトグループ	<p>RBAC の場合、ユーザーがアクセスすることを許可された資産のコレクション、保護計画、サーバー、その他のリソースを指します。</p>
NetBackup 証明書	<p>NetBackup CA から発行されたセキュリティ証明書。</p>
保護計画	<p>保護計画は、バックアップを実行するタイミング、バックアップの保持期間、使用するストレージ形式を定義します。保護計画を設定したら、資産を保護計画にサブスクライブできます。</p>
RBAC	<p>役割ベースのアクセス制御です。管理者は、RBAC で構成されているアクセスルールを通じて、NetBackup Web UI へのアクセスを委任または制限できます。</p> <p>注意: RBAC で構成したルールは、NetBackup 管理コンソールまたは CLI へのアクセスを制御しません。Web UI は、NetBackup アクセス制御 (NBAC) ではサポートされておらず、NBAC が有効になっている場合は使用できません。</p>

用語	定義
役割	RBAC の場合、ユーザーが持つことができる権限を定義します。 NetBackup にはシステム定義の役割が 3 つあり、ユーザーがセキュリティ、保護計画、バックアップを管理したり、作業負荷資産を管理したりすることを可能にします。
ストレージ	データのバックアップ、レプリケート、または複製 (長期保持用) 対象となるストレージです。クラウドの作業負荷に対しては、スナップショットストレージが使用されます。
サブスクリプション、保護計画に対して	資産または資産グループを保護する保護計画を選択する処理です。関連付けられた資産は、計画のスケジュールとストレージの設定に従って保護されます。Web UI では、サブスクリプションを「保護の追加」とも表記します。
保護計画からサブスクリプション解除する	サブスクリプション解除は、保護を解除する処理、または計画から資産や資産グループを削除する処理を指します。
作業負荷 (Workload)	資産のタイプです。たとえば、VMware、RHV、またはクラウドです。
ワークフロー	NetBackup Web UI を使用して完了できるエンドツーエンドプロセスです。たとえば、NetBackup 8.1.2 以降では、VMware とクラウドの資産を保護およびリカバリできます。

NetBackup Web UI へのサインイン

権限を持つユーザーは、NetBackup Web UI を使用して、NetBackup マスターサーバーに Web ブラウザからサインインできます。利用可能なサインインオプションは次のとおりです。

- 「ユーザー名とパスワードでサインインする」
- 「証明書またはスマートカードでサインインする」

ユーザー名とパスワードでサインインする

権限を持つユーザーである場合は、NetBackup Web UI にサインインできます。詳しくは、NetBackup セキュリティ管理者にお問い合わせください。

NetBackup Web UI を使用して、NetBackup マスターサーバーにサインインするには

- 1 Web ブラウザを開き、次の URL に移動します。

`https://masterserver/webui/login`

`masterserver` は、サインインする NetBackup マスターサーバーのホスト名または IP アドレスです。

- 2 クレデンシャルを入力して、[サインイン (Sign in)] をクリックします。

次に例を示します。

ユーザーの種類	使用する形式	例
ローカルユーザー	<code>username</code>	<code>root</code>
ドメインユーザー	<code>DOMAIN\username</code>	<code>WINDOWS\Administrator</code>

証明書またはスマートカードでサインインする

権限を持つユーザーである場合は、スマートカードまたはデジタル証明書を使用して NetBackup Web UI にサインインできます。詳しくは、NetBackup セキュリティ管理者にお問い合わせください。

スマートカードにないデジタル証明書を使用するには、まずブラウザの証明書マネージャに証明書をアップロードする必要があります。詳しくはブラウザのマニュアルで手順を参照するか、証明書管理者にお問い合わせください。

証明書またはスマートカードでサインインするには

- 1 Web ブラウザを開き、次の URL に移動します。

`https://masterserver/webui/login`

`masterserver` は、サインインする NetBackup マスターサーバーのホスト名または IP アドレスです。

- 2 [証明書またはスマートカードでサインイン (Sign in with certificate or smart card)] をクリックします。
- 3 ブラウザにプロンプトが表示されたら、証明書を選択します。

NetBackup ダッシュボード

NetBackup ダッシュボードは、組織内のロールに関連する詳細情報のクイックビューを提供します。

表 1-2 バックアップ管理者向けの NetBackup ダッシュボード

ダッシュボードウィジェット	説明
ジョブ	アクティブジョブやキューに投入済みのジョブの数、試行されたジョブや完了したジョブの状態などのジョブ情報を一覧表示します。
使用状況レポート	<p>組織内の NetBackup マスターサーバーのバックアップデータのサイズを一覧表示します。このレポートは、容量ライセンスを追跡するために役立ちます。右上のドロップダウンリストを使用して、表示する期間とビューを選択します。サーバー名をクリックして、そのサーバーの特定の詳細を表示します。</p> <p>このウィジェットでマスターサーバーの情報を表示するために NetBackup を構成する方法について、追加の情報を参照できます。</p> <p>p.29 の「マスターサーバー上のバックアップデータサイズの追跡」を参照してください。</p>

保護計画の管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [保護計画の作成](#)
- [保護計画の編集または削除](#)
- [保護計画への資産または資産グループのサブスクリプション](#)
- [保護計画からの資産のサブスクリプション解除](#)
- [NetBackup の従来のポリシーについて](#)

保護計画の作成

保護計画は、バックアップを実行するタイミング、バックアップの保持期間、使用するストレージ形式を定義します。保護計画を設定したら、その保護計画に資産をサブスクリプションできます。

保護計画を作成する前に、すべてのストレージオプションを構成する必要があります。これらのストレージオプションは、**NetBackup 管理コンソール**で構成する必要があります。次の手順 (手順 5) で、設定可能なストレージオプションの種類を参照してください。

メモ: アップグレード後に、**Web UI** に保護計画が表示されない場合があります。変換プロセスが実行されていない可能性があります。アップグレードの実行から **5 分以内**に実行されるはずですが、変換プロセスが最初に失敗した場合、最大で **4 時間**ほどかかることがあります。

保護計画を作成するには

- 1 左側で[保護計画 (Protection plans)]、[追加 (Add)]の順にクリックします。
- 2 [基本プロパティ (Basic properties)]で、[名前 (Name)]と[説明 (Description)]を入力し、ドロップダウンリストから[サポート対象の作業負荷 (Supported Workload)]を選択します。

必要に応じて次のオプションを選択できます。

- **カスタム保護の許可 (Allow Custom Protection):**
この保護計画に基づいたカスタム保護計画の作成を作業負荷管理者に許可する場合、このオプションを選択します。[クラウド (Cloud)]作業負荷では、このオプションを設定できません。
 - **ポリシー名接頭辞 (Policy name prefix):**
このオプションは、ポリシー名の指定に使用します。ユーザーがこの保護計画に資産をサブスクライブする際に、**NetBackup** はポリシーを自動的に作成します。このとき、ポリシー名に接頭辞が付加されます。
- 3 [スケジュールおよび保持 (Schedules and retention)]で、[スケジュールの追加 (Add schedule)]をクリックします。スケジュール形式、スケジュールを実行する頻度、この保護計画のバックアップを保持する期間を選択できます。オプションは、選択した作業負荷によって異なります。

頻度として[毎月 (Monthly)]を選択する場合、[曜日 (Days of the week)] (グリッドビュー) または[日付 (Days of the month)] (カレンダービュー) のいずれかを選択できます。

メモ: スケジュール形式として[自動 (Automatic)]を選択すると、この保護計画のすべてのスケジュールが[自動 (Automatic)]になります。スケジュール形式として[完全 (Full)]、[差分増分 (Differential incremental)]、[累積増分 (Cumulative Incremental)]を選択する場合、この保護計画のすべてのスケジュールをそれらのいずれかのオプションにする必要があります。

スケジュール形式として[自動 (Automatic)]を選択すると、スケジュール形式が**NetBackup** で自動的に設定されます。指定した頻度に基づいて、[完全 (Full)]または[差分増分 (Differential incremental)]をいつ実行するかが **NetBackup** で計算されます。

- (オプション) バックアップをレプリケートするには、[このバックアップをレプリケートする (Replicate this backup)]をオンにします。
 - [このバックアップをレプリケートする (Replicate this backup)]オプションを使用するには、バックアップストレージが、対象のA.I.R.環境でソースになっている必要があります。[レプリケーションターゲット (Replication target)]は、手順 5 で構成します。

- レプリケーションについて詳しくは、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』の、[NetBackup 自動イメージレプリケーション](#)についての説明を参照してください。
 - (オプション) 長期保持用ストレージにコピーを維持するには、[長期保持用にすぐにコピーを複製する (Duplicate a copy immediately to long-term retention)] をオンにします。
 - NetBackup は、バックアップの完了後すぐに、長期保持用ストレージにコピーを複製します。
 - 長期保持用ストレージに利用可能なスケジュールオプションは、作成した通常のバックアップスケジュールの頻度と保持レベルに基づいています。
- 4 (オプション) 作業負荷として[クラウド (Cloud)]を選択した場合、スケジュールと保持の構成後にスナップショットレプリケーションを構成できます。クラウドスナップショットレプリケーションについて詳しくは、『[NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド](#)』を参照してください。

[追加コピー (Additional copies)]列で次の操作を行います。

- [スナップショットレプリケーションの構成 (Configure Snapshot replication)]をクリックします。
- [スナップショットレプリカの構成 (Configure snapshot replica)]ダイアログで、[追加 (Add)]をクリックします。
- [保持 (Retention)]を構成し、レプリケートしたスナップショットの[宛先 (Destination)]を選択します。

メモ: 追加のクラウドレプリケーションコピーは、保護計画ごとに 1 つだけ作成できません。

作業負荷として[クラウド (Cloud)]を選択した場合、手順 7 に進みます。

- 5 [ストレージオプション (Storage options)]で、手順 3 で構成したスケジュールごとのストレージ形式を選択します。

オプションは、NetBackup で使用するように現在設定されているストレージオプションによって異なります。

保護計画を作成するときに、NetBackup 8.1.2 以降のメディアサーバーがアクセスできるストレージのみを選択します。

ストレージオプション	要件	説明
スナップショットストレージのみ (Snapshot storage only)	このオプションには、CloudPoint が必要です。	NetBackup 管理コンソールでスナップショット管理サーバー機能を使用して、CloudPoint を構成します。スナップショットのみのストレージオプションを使用する場合、他のストレージオプションは選択できません。手順 6 に進みます。
バックアップストレージ (Backup storage)	このオプションには、OpenStorage が必要です。テープ、ストレージユニットグループ、および Replication Director はサポートされません。	[編集 (Edit)]をクリックして、ストレージターゲットを選択します。ストレージターゲットを選択したら、[選択したストレージの使用 (Use selected storage)]をクリックします。 NetBackup Accelerator 機能では、使用するネットワーク帯域幅が少ないコンパクトなデータストリームを作成することで、従来のバックアップよりも保護計画を迅速に実行できます。NetBackup マスターサーバー上のストレージサーバーで NetBackup Accelerator がサポートされる場合、この機能は保護計画に含まれます。NetBackup Accelerator について詳しくは、NetBackup 管理者に問い合わせるか、『NetBackup 管理者ガイド Vol.1』または『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。 インスタントアクセス機能を使用すると、計画の VM のリカバリポイントで、インスタントアクセス VM の作成をサポートできます。
レプリケーションターゲット (Replication target)	バックアップストレージは、対象の A.I.R. 環境でソースになっている必要があります。	[編集 (Edit)]をクリックして、レプリケーションターゲットマスターサーバーを選択します。マスターサーバーを選択し、次にストレージライフサイクルポリシーを選択します。[選択したレプリケーションターゲットを使用 (Use selected replication target)]をクリックして、ストレージオプション画面に戻ります。 レプリケーションターゲットマスターサーバーがリストに表示されない場合、NetBackup で追加する必要があります。レプリケーションターゲットマスターサーバーを追加する方法については、『NetBackup Deduplication ガイド』の「信頼できるマスターサーバーの追加」を確認してください。
長期保持ストレージ (Long-term retention storage)	このオプションには、OpenStorage が必要です。テープ、ストレージユニットグループ、および Replication Director はサポートされません。	[編集 (Edit)]をクリックして、クラウドストレージプロバイダを選択します。クラウドプロバイダターゲットを選択したら、[選択したストレージの使用 (Use selected storage)]をクリックします。

- 6 [バックアップオプション (Backup options)]で、作業負荷の種類に基づいてすべてのオプションを構成します。この領域のオプションは、選択した作業負荷オプションによって異なります。
- 7 計画の詳細を確認し、[保存 (Save)]をクリックします。

保護計画の編集または削除

保護計画の編集

保護計画の[名前 (Name)]、[説明 (Description)]、[ストレージオプション (Storage options)]を変更できます。

メモ: 保護計画の作成後は、[バックアップスケジュール (Backup schedules)]、[バックアップオプション (Backup options)] [詳細 (Advanced)] オプションを編集できません。異なる保護設定を使用する場合、新しい保護計画を作成する必要があります。

p.13 の「[保護計画の作成](#)」を参照してください。

保護計画を編集するには

- 1 左側の[保護計画 (Protection plans)]をクリックします。
- 2 編集する保護計画の名前をクリックします。
- 3 (オプション) 右側で[名前と説明を編集する (Edit name and description)]をクリックして保護計画の名前と説明を編集します。
- 4 (オプション) [ストレージオプション (Storage options)] セクションで、[編集 (Edit)] をクリックしてストレージオプションを変更します。

保護計画の削除

保護計画を削除する前に、資産を別の保護計画に追加する必要があります。資産を別の保護計画に移動することで、この計画が保護する資産上のデータが確実に保護されます。すべての資産を保護計画から削除しない限り、保護計画は削除できません。

保護計画を削除するには

- 1 (新規または既存の) 資産を追加する保護計画を書き留めておきます。
p.13 の「[保護計画の作成](#)」を参照してください。
- 2 削除する計画で現在保護されている資産を特定します。

- 3 (オプション) 新しいまたは既存の保護計画に資産をサブスクリプションします。
p.19 の「[保護計画からの資産のサブスクリプション解除](#)」を参照してください。
p.18 の「[保護計画への資産または資産グループのサブスクリプション](#)」を参照してください。
- 4 削除する保護計画から資産のサブスクリプションを解除します。
- 5 左側の[保護計画 (Protection plans)]をクリックします。
- 6 削除する保護計画のチェックボックスにチェックマークを付けます。
- 7 右上の[削除 (Delete)]をクリックします。次に、[はい (Yes)]をクリックします。

保護計画への資産または資産グループのサブスクリプション

1 つの資産または資産のグループを、保護計画にサブスクリプションできます。1 つの資産または資産のグループを、複数の保護計画にサブスクリプションできます。保護計画に資産をサブスクリプションする前に、保護計画を作成する必要があります。

保護計画に資産または資産グループをサブスクリプションするには

- 1 左側で作業負荷の種類をクリックします (VMware など)。
- 2 資産タイプを選択します (仮想マシン、インテリジェント VM グループなど)。
- 3 1 つ以上の資産を選択します。
- 4 [保護の追加 (Add protection)]をクリックします。
クラウド作業負荷資産または資産グループを選択した場合、手順 7 に進みます。
- 5 [保護方法 (Protection method)]で、保護計画の種類を選択します。
 - 保護計画にサブスクリプションする (Subscribe to a protection plan)
選択した計画でこの設定を使用するには、このオプションを選択します。計画に対する変更は、自動的に継承されます。
 - カスタム保護 (Custom protection)
選択した計画をカスタマイズするには、このオプションを選択します。すべての計画と設定をカスタマイズできる訳ではありません。選択した計画に対する変更は、選択した資産または資産グループには適用されません。
- 6 (オプション) [カスタム保護 (Custom protection)]を選択した場合、次のようにオプションを調整できます。
 - スケジュールと保持 (Schedules and retention)
スケジュールと保持期間の追加や既存のスケジュールと保持期間の編集を行います。

- ストレージ (Storage)
元の保護計画で設定されているストレージオプションを調整します。
 - バックアップオプション (Backup options)
元の保護計画で設定されているバックアップオプションを調整します。この領域のオプションは作業負荷によって異なります。
 - 詳細 (Advanced)
元の保護計画で設定されているオプションの変更や追加を行います。
- 7 [保護 (Protect)]をクリックします。
- p.13 の「[保護計画の作成](#)」を参照してください。

保護計画からの資産のサブスクリプション解除

個別の資産または資産のグループのサブスクリプションを、保護計画から解除できます。

メモ: 保護計画から資産のサブスクリプションを解除するときに、Web UI で、資産に従来のポリシーが表示される可能性があります。この状況は、保護計画に資産がサブスクリプションされており、その資産に対してバックアップが実行される場合に発生することがあります。資産は、有効なバックアップイメージを持ったまま、保護計画からサブスクリプション解除されます。Web UI には従来のポリシーが表示されますが、資産を保護する有効なポリシーがない場合もあります。

保護計画から 1 つの資産のサブスクリプションを解除するには

- 1 左側で作業負荷の種類をクリックします (VMware など)。
- 2 1 つの資産タイプを選択します (仮想マシンなど)。
- 3 特定の資産名をクリックします。
- 4 [保護の削除 (Remove protection)]をクリックし、[はい (Yes)]をクリックします。

保護計画から資産のグループのサブスクリプションを解除するには

- 1 左側で作業負荷の種類をクリックします (VMware など)。
- 2 グループ資産タイプを選択します (インテリジェント VM グループなど)。
- 3 特定のグループ資産名をクリックします。
- 4 [保護の削除 (Remove protection)]をクリックし、[はい (Yes)]をクリックします。

p.13 の「[保護計画の作成](#)」を参照してください。

p.17 の「[保護計画の編集または削除](#)」を参照してください。

NetBackup の従来のポリシーについて

NetBackup の従来のポリシー、保護計画、またはその両方を同時に使用して、資産を保護できます。このトピックでは、NetBackup Web UI での NetBackup の従来のポリシーについてよく寄せられる質問に回答します。

表 2-1 従来のポリシーについてよく寄せられる質問

質問	回答
Web UI の [保護 (Protected by)] 列の [従来のポリシーのみ (Classic policy only)] は何を意味しますか。	資産は、現在保護計画にサブスクライブされていません。ただし、保護計画にサブスクライブされていたか、ある時点の従来のポリシーで保護対象になっていて [最終バックアップ (Last backup)] の状態になっています。資産を保護している、有効な従来のポリシーがある場合もありません (調べるには NetBackup 管理者にお問い合わせください)。
従来のポリシーの詳細はどこで見つかりますか。	従来のポリシーの詳細は、Web UI には表示されません。従来のポリシーを管理するために、NetBackup 管理者は、NetBackup 管理コンソールまたは NetBackup CLI を使うことができます。また、NetBackup 管理者またはバックアップ管理者は、NetBackup API を使用してポリシーを管理および作成できます。
保護計画への資産のサブスクライブと、従来のポリシーによる資産の保護は、それぞれどのような場合に行うべきですか。	NetBackup 管理者のみが従来のポリシーを作成できます。保護計画に資産をサブスクライブするのに必要な権限を持っていない場合は、保護計画を構成するようにバックアップ管理者に依頼します。バックアップ管理者は、資産の保護に保護計画 (Web UI) を使用するか、従来のポリシー (管理コンソール) を使用するかを選択できます。
保護計画と従来のポリシーの両方を使用して、資産を保護できますか。	はい。Web UI には、保護計画の詳細は表示されますが、従来のポリシーの詳細は表示されません。従来のポリシーについて詳しくは、NetBackup 管理者にお問い合わせください。
保護計画から資産のサブスクライブが解除されて、Web UI でその資産に対して [従来のポリシーのみ (Classic policy only)] と表示された場合に、どのような対処が必要ですか。	従来のポリシーが資産を保護しているかどうかを、NetBackup 管理者に問い合わせることができます。

ジョブの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [ジョブの監視](#)
- [ジョブ: キャンセル、中断、再起動、再開、削除](#)
- [ジョブリストのジョブフィルタ](#)

ジョブの監視

[ジョブ (Jobs)]ノードを使用して、NetBackup 環境のジョブを監視し、特定のジョブの詳細を表示します。

ジョブを監視するには

- 1 [ジョブ (Jobs)]をクリックし、表示するジョブの名前を選択するか、ジョブにチェックマークを付けます。ジョブのチェックボックスにチェックマークを付けると、そのジョブで、ジョブの再起動などの特定のアクションを実行できます。[状態 (Status)]で、状態コードをクリックして状態コードメッセージを表示します。
 - [概要 (Overview)]タブを選択して、ジョブに関する情報を表示します。タブには、[ファイルリスト (File List)]と[状態 (Status)]が表示されます。[ファイルリスト (File List)]には、バックアップイメージに含まれているファイルが表示されます。[状態 (Status)]で状態コード番号をクリックすると、この状態コードについてのペリタスナレッジベースの情報が表示されます。
[『NetBackup 状態コードリファレンスガイド』](#)を参照してください。
 - [詳細 (Details)]タブを選択して、ジョブについて記録された詳細を表示します。ドロップダウンメニューを使用して、エラーの種類によってログをフィルタできます。
- 2 ここから、追加タスクを実行できます。
p.22 の「[ジョブ: キャンセル、中断、再起動、再開、削除](#)」を参照してください。

ジョブ: キャンセル、中断、再起動、再開、削除

ジョブを管理するには

- 1 [ジョブ (Jobs)]をクリックします。
- 2 1つ以上のジョブを選択します。
- 3 最上位のメニューは、選択したジョブで実行できるアクションを示します。

キャンセル (Cancel) まだ完了していないジョブは取り消すことができます。このようなジョブの状態は、[キューに投入済み (Queued)]、[待ち行列へ再投入済み (Requeued)]、[有効 (Active)]、[未完了 (incomplete)]、または[一時停止 (Suspended)]のいずれかである場合があります。

親ジョブがキャンセルされた場合、子ジョブもキャンセルされます。

一時停止 (Suspend) チェックポイントを含むバックアップジョブやリストアジョブを一時停止できます。

再起動 (Restart) 完了したジョブや、失敗したジョブ、キャンセルまたは一時停止されたジョブを再起動できます。

新しいジョブには、新しいジョブ ID が作成されます。

再開 (Resume) 一時停止されたジョブや、未完了状態のジョブを再開できます。

削除 (Delete) 完了したジョブを削除できます。親ジョブを削除すると、子ジョブもすべて削除されます。

ジョブリストのジョブフィルタ

特定の状態のジョブを表示するために、ジョブをフィルタできます。たとえば、実行中のジョブまたは一時停止中のジョブをすべて表示できます。

ジョブリストをフィルタするには

- 1 [ジョブ (Jobs)]をクリックします。
- 2 ジョブリストの上にある[フィルタ (Filter)]オプションをクリックします。
- 3 [フィルタ (Filter)]ウィンドウでフィルタオプションを選択すると、表示されるジョブが動的に変わります。フィルタオプションは次のとおりです。
 - すべて (All)
 - 有効 (Active)
 - 完了 (Done)
 - 失敗 (Failed)

- 未完了 (Incomplete)
 - 部分的に成功 (Partially Successful)
 - キューへ投入済み (Queued)
 - 成功 (Successful)
 - 一時停止 (Suspended)
 - 再試行を待機中 (Waiting for Retry)
- 4 [フィルタの適用 (Apply Filters)]をクリックします。
 - 5 選択したフィルタを解除するには、[すべて消去 (Clear All)]をクリックします。

アラートの電子メール通知の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup アラートについて](#)
- [アラートの電子メール通知の構成方法](#)
- [アラートと通知を使用するための前提条件](#)
- [アラートでサポートされる状態コードについて](#)
- [アラートと通知設定の構成](#)

NetBackup アラートについて

バックアップ管理者は、ジョブでエラー発生したときに電子メール通知を送信するように NetBackup を構成できます。これらの通知は、サポート対象チケットシステムにも送信できます。

この機能を利用することで、NetBackup 管理者が、ジョブの失敗を監視したり、問題を追跡するためにチケットを手動で作成したりするために時間を費やす必要がなくなります。NetBackup は、チケット作成のための受信電子メールサービスを使用する、チケットシステムをサポートします。

NetBackup は、特定の状態コードに基づいてアラートを生成します。

p.25 の「[アラートでサポートされる状態コードについて](#)」を参照してください。

類似したアラート、またはエラーの原因が類似しているアラートは、重複としてマークされます。重複アラートの電子メール通知は、その後 24 時間は送信されません。電子メール通知を送信できない場合、NetBackup は 2 時間ごとに最大 3 回まで、通知の送信を再試行します。

アラートの電子メール通知の構成方法

特定のジョブエラー条件または NetBackup の状態コードに基づいて、アラートが生成され、電子メール通知を通じてチケットシステムに送られます。

p.24 の「[NetBackup アラートについて](#)」を参照してください。

p.25 の「[アラートでサポートされる状態コードについて](#)」を参照してください。

次の表は、アラートとチケットを生成するために実施が必要な手順を示します。

表 4-1 NetBackup のアラートとチケットの生成

手順	処理	参照トピック
1	アラートと通知のための前提条件を確認します。	p.25 の「 アラートと通知を使用するための前提条件 」を参照してください。
2	アラートが生成され、電子メール通知としてチケットシステムに送信される条件と状態コードについて理解します。	p.25 の「 アラートでサポートされる状態コードについて 」を参照してください。
3	チケットシステムにアラートが送信されるようにするために、電子メール通知を構成します。	注意: 電子メール通知を送信しない状態コードは除外できます。 p.26 の「 アラートと通知設定の構成 」を参照してください。
4	チケットシステムで、NetBackup アラート(またはチケット)を表示します。	チケットシステムにログオンして、NetBackup のアラートで生成されるチケットを表示します。

アラートと通知を使用するための前提条件

チケットシステムを使用してアラートと通知を行うように Web UI を構成する前に、次を確認してください。

- チケットシステムが起動し、実行中である。
- SMTP サーバーが起動し、実行中である。
- NetBackup が送信する受信電子メールに基づいてチケット(またはインシデント)を作成するために、チケットシステムでポリシーが構成されている。

アラートでサポートされる状態コードについて

NetBackup Web UI は、VMware ジョブのエラーに対するアラートをサポートして 90 日間保持します。NetBackup は、バックアップ、スナップショット、スナップショットレプリケー

ション、スナップショットからのインデックス、スナップショットからのバックアップのジョブの種類に対してサポート対象の状態コードのアラートを生成します。アラートが生成される状態コードの完全なリストについては、『[NetBackup 状態コードリファレンスガイド](#)』で、アラート通知の状態コードに関する情報を参照してください。

表 4-2 は、アラートが生成される条件または状態コードの一部を示します。これらのアラートは、電子メール通知を通じてチケットシステムに送信されます。

表 4-2 サポートされるの状態コードの例

状態コード	エラーメッセージ
10	割り当てに失敗しました (allocation failed)
196	バックアップ処理時間帯でないため、クライアントバックアップが試行されませんでした (client backup was not attempted because backup window closed)
213	利用可能なストレージユニットがありません (no storage units available for use)
219	必要なストレージユニットが利用できません (the required storage unit is unavailable)
2001	利用可能なドライブがありません
2074	ディスクボリュームが停止しています (Disk Volume is Down)
2505	データベースに接続できません。
4200	操作に失敗しました: スナップショットのロックを獲得できません。
5449	スクリプトが実行を承認されていません。
7625	SSL ソケット接続に失敗しました。

アラートと通知設定の構成

ジョブのエラーに関連するイベントが発生したときに電子メール通知を送信するように、NetBackup を構成できます。

電子メール通知を設定するには

- 1 右上で、[設定 (Settings)]、[アラートと通知の設定 (Alerts and notification settings)]の順にクリックします。
- 2 [電子メール通知 (Email notifications)]をクリックします。
- 3 [電子メール通知の送信 (Send email notifications)]オプションを有効にします。
- 4 受信者の電子メールアドレス、送信者の電子メールアドレス、電子メールの送信者の名前など、電子メールの情報を入力します。

- 5 SMTP サーバー名やポート番号などの、SMTP サーバーの詳細を入力します。
SMTP サーバーで以前にクレデンシヤルを指定した場合は、SMTP ユーザー名とパスワードを指定します。
- 6 [保存 (Save)]をクリックします。

電子メール通知からの特定の状態コードの除外

特定の状態コードを除外して、これらのエラーでは電子メール通知が送信されないようにできます。

特定の状態コードを除外するには

- 1 右上で、[設定 (Settings)]、[アラートと通知の設定 (Alerts and notification settings)]の順にクリックします。
- 2 [状態コードを除外 (Exclude status codes)]をクリックします。
- 3 電子メール通知を受信しない状態コードまたは状態コードの範囲 (カンマ区切り)を入力します。
- 4 [保存 (Save)]をクリックします。

アラートの電子メール通知の例

アラートの電子メール通知には、マスターサーバー、ジョブ、ポリシー、スケジュール、エラーについての情報が含まれています。ジョブの種類に基づいて、電子メールにその他の情報が含まれる場合があります。たとえば、VMware ジョブのエラーの場合、vCenter Server や ESX ホストなどの詳細が電子メール通知に含まれます。

電子メール通知の例:

マスターサーバー: master1.example.com

クライアント名: client1.example.com

ジョブ ID: 50

ジョブ開始時間: 2018-05-17 14:43:52.0

ジョブ終了時間: 2018-05-17 15:01:27.0

ジョブの形式: BACKUP

親ジョブ ID: 49

ポリシー名: Win_policy

ポリシー形式: WINDOWS_NT

スケジュール名: schedule1

スケジュール形式: FULL

状態コード 2074

エラーメッセージ: ディスクボリュームが停止しています (Disk volume is down)

使用状況レポートと容量ライセンス

この章では以下の項目について説明しています。

- [マスターサーバー上のバックアップデータサイズの追跡](#)
- [NetBackup CA が署名した \(ホスト ID ベースの\) 証明書を使用した信頼できるマスターサーバーの追加](#)
- [使用状況レポートのサーバーリストの構成](#)
- [容量ライセンスのレポートのスケジュール設定](#)
- [増分レポートのその他の構成](#)
- [nbdeployutil と増分レポートのエラーのトラブルシューティング](#)

マスターサーバー上のバックアップデータサイズの追跡

使用状況レポートアプリケーションは、組織内の NetBackup マスターサーバーにあるバックアップデータのサイズを一覧表示します。このレポートには、次の利点があります。

- 容量ライセンスを計画する機能がある。
- NetBackup が週単位で使用状況と傾向の情報を収集してレポートできる。
nbdeployutil ユーティリティによって、レポート用のデータの収集の実行をスケジュール化できる (デフォルトで有効)。詳しくは、『[容量ライセンスレポートのスケジュール設定](#)』を参照してください。
- [Smart Meter](#) へのリンク。このツールを使用すると、NetBackup カスタマは、消費パターンをほぼリアルタイムで視覚的に把握して、ライセンスの使用状況を積極的に管理できます。
- 次のポリシー形式のレポートを作成します。

NetBackup CA が署名した (ホスト ID ベースの) 証明書を使用した信頼できるマスターサーバーの追加

BigData	Informix	NDMP	Sybase
MS-Exchange-Server	MS-SQL-Server	Oracle	VMware
Hyper-V	MS-Windows	Standard	Hypervisor

要件

NetBackup は、次の要件が満たされていれば、使用状況レポートのデータを自動的に収集します。

- マスターサーバー (1 台または複数) が NetBackup 8.1.2 以降を実行している。
- 容量ライセンスを使用している。
- スケジュールされた自動レポートを使用している。容量ライセンスレポートを手動で生成する場合、NetBackup Web UI の使用状況レポートにデータは表示されません。
- 次のファイルが存在する。
UNIX の場合: /usr/opensv/var/global/incremental/Capacity_Trend.out
Windows の場合:
`install_path¥var¥global¥incremental¥Capacity_Trend.out`
- マスターサーバーのいずれかで、他のリモートマスターサーバーの使用状況レポートのデータを収集する場合は、追加の構成が必要です。マスターサーバー間に信頼関係を作成する必要があります。ローカルマスターサーバー (nbdeployutil の実行を計画している場所) を、各リモートマスターサーバー上の [サーバー (Servers)] リストに追加することも必要です。
p.33 の「使用状況レポートのサーバーリストの構成」を参照してください。
p.30 の「NetBackup CA が署名した (ホスト ID ベースの) 証明書を使用した信頼できるマスターサーバーの追加」を参照してください。

追加情報

『容量ライセンスレポートのスケジュール設定』。容量ライセンス、スケジュール設定、および容量ライセンスレポートのオプションの詳細を説明します。

『Veritas Smart Meter スタートガイド』。Smart Meter を使用して NetBackup の配備とライセンスを管理する方法についての詳細を説明します。このツールでは、正確なほぼリアルタイムのレポートで、バックアップされるデータの合計量を確認できます。

NetBackup CA が署名した (ホスト ID ベースの) 証明書を使用した信頼できるマスターサーバーの追加

NetBackup Web UI の複数のマスターサーバーの利用状況レポートを作成する場合は、異なるドメインの NetBackup サーバー間に信頼関係を構成する必要があります。

開始する前に

ソースとターゲットの両方のサーバーで次の手順を実行します。

- ソースサーバーとターゲットサーバーにインストールされている **NetBackup** バージョンを識別します。
NetBackup 8.1.2 以降では、使用状況のレポートとスマートメーターがサポートされています。
- リモートサーバーの認証トークンを取得します。
bpnbat コマンドを使用してログインし、**nbcertcmd** で認証トークンを取得します。
- リモートサーバーのフィンガープリントを取得します。
 証明書の **SHA1** フィンガープリントを取得するには、**nbcertcmd -displayCACertDetail** コマンドを使用します。
- 次のいずれかのアクセス権があることを確認します。
 - ルート 権限 (**UNIX**) または管理者権限 (**Windows**) があるシステム管理者権限および **NetBackup Appliance 3.1** の **NetBackupCLI** ユーザー。
 - **NetBackup** 管理者コンソールへのアクセス権 (**auth.conf** で `<username> ADMIN=ALL` のアクセス権がある)
 - **authalias.conf** に記述された、強化された監査 (**EA**) ユーザーアクセス権
 - リモートの **Windows** マスターサーバーで、ユーザーのドメインが認証サービスのドメインと同じでない場合、**vssat addldapdomain** コマンドを使用して **LDAP** でドメインを追加する必要があります。『**NetBackup コマンドリファレンスガイド**』を参照してください。
 また、このユーザーには **RBAC** セキュリティ管理者権限が必要です。『**セキュリティ管理者向け WEB UI ガイド**』を参照してください。

NetBackup CA が署名した証明書を使用した、信頼できるマスターサーバーを追加する方法 (ソースサーバーとターゲットサーバーの両方が **NetBackup 8.1** 以降の場合)

この手順を使用すると、**NetBackup** の **CA** ベースの証明書を使用して信頼を確立する際に、信頼できるマスターサーバーを追加できます。

信頼できるマスターサーバーを追加する方法 (ソースサーバーとターゲットサーバーの両方が **NetBackup** バージョン **8.1** 以降の場合)

- 1 **NetBackup** 管理コンソールの左ペインで、[**NetBackup** の管理 (**NetBackup Management**)] > [**ホストプロパティ (Host Properties)**] > [**マスターサーバー (Master Servers)**] を展開します。
- 2 右ペインで、マスターサーバーを選択し、[**処理 (Actions)**]、[**プロパティ (Properties)**] の順にクリックします。
- 3 **プロパティダイアログボックス**の左ペインで、[**サーバー (Servers)**] を選択します。

NetBackup CA が署名した (ホスト ID ベースの) 証明書を使用した信頼できるマスターサーバーの追加

- 4 [信頼できるマスターサーバー (Trusted Master Servers)] タブで、[追加 (Add)] をクリックします。
- 5 リモートマスターサーバーの完全修飾ホスト名を入力し、[認証局の検証 (Validate Certificate Authority)] をクリックします。
- 6 [認証局の検証 (Validate Certificate Authority)] ダイアログボックスで、リモートサーバーの CA 証明書フィンガープリントが正しいかどうかを確認します。
続行するには [はい (Yes)] をクリックします。
フィンガープリントが一致しない場合は、[いいえ (No)] をクリックします。リモートサーバー管理者に問い合わせて正しいフィンガープリントを指定します。
- 7 次の方法のいずれかを使用して信頼できるマスターサーバーの詳細を入力します。
 - [信頼できるマスターサーバーの認証トークンの指定 (Specify Authentication Token of the trusted master server)] を選択し、リモートマスターサーバーのトークンの詳細を入力します。
 - [信頼できるマスターサーバーのクレデンシャルの指定 (Specify credentials of the trusted master server)] を選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。この方法では、セキュリティ違反が発生する可能性があることに注意してください。制限付きアクセスを提供し、両方のホスト間で安全な通信を許可できるのは、認証トークンのみです。
NetBackup Master Appliance 3.1 との信頼を確立するには、NetBackup CLI クレデンシャルを使用します。
- 8 [OK] をクリックします。
- 9 手順 5 で追加したリモートマスターサーバーで同じ手順を実行します。

NetBackup CA が署名した証明書を使用した、信頼できるマスターサーバーを追加する方法 (ソースサーバーとターゲットサーバーの両方が NetBackup 8.0 以前の場合)**信頼できるマスターサーバーを追加する方法 (ソースとターゲットサーバーの両方が NetBackup 8.0 以前の場合)**

- 1 グローバルセキュリティ設定で、[NetBackup 8.0 以前のホストとの安全でない通信を有効にする (Enable insecure communication with NetBackup 8.0 and earlier hosts)] オプションが有効になっていることを確認します。
- 2 NetBackup 管理コンソールの左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)] > [ホストプロパティ (Host Properties)] > [マスターサーバー (Master Servers)] を展開します。
- 3 右ペインで、マスターサーバーを選択し、[処理 (Actions)]、[プロパティ (Properties)] の順にクリックします。
- 4 プロパティダイアログボックスの左ペインで、[サーバー (Servers)] を選択します。

- 5 [信頼できるマスターサーバー (Trusted Master Servers)] タブで、[追加 (Add)] をクリックします。
- 6 リモートマスターサーバーの完全修飾ホスト名を入力し、[認証局の検証 (Validate Certificate Authority)] をクリックします。
- 7 リモートマスターサーバーホストの[ユーザー名 (Username)] と [パスワード (Password)] を入力します。
- 8 [OK] をクリックします。

詳細情報

Web UI の使用状況のレポートについて詳しくは、『[NetBackup Web UI for Backup Administrator's Guide](#)』を参照してください。

コマンドの使用について詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。authaliases.conf について詳しくは、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』を参照してください。

使用状況レポートのサーバーリストの構成

マスターサーバーの使用状況レポート情報を追加しようとしても、そのサーバーがインターネットに接続されていない場合は、リモートマスターサーバーのサーバーリストに、ローカルマスターサーバーの名前を追加する必要があります。ローカルマスターサーバーは、nbdeployutil の実行を計画している場所です。

リストにサーバーを追加する方法

- 1 リモートマスターサーバーに、ルートまたは管理者としてログオンします。
- 2 NetBackup 管理コンソールの左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)] > [ホストプロパティ (Host Properties)] を展開します。
- 3 [マスターサーバー (Master Servers)] を選択します。
- 4 右ペインで、変更するマスターサーバーをダブルクリックします。
- 5 プロパティダイアログボックスの左ペインで、[サーバー (Servers)] をクリックします。
- 6 [追加サーバー (Additional Servers)] タブを選択します。
- 7 [追加 (Add)] をクリックします。
- 8 [新しいサーバーエントリの追加 (Add a New Server Entry)] ダイアログボックスで、nbdeployutil の実行を計画しているマスターサーバーの名前を入力します。
- 9 [追加 (Add)] をクリックします。ダイアログボックスを開いたまま、他のエントリを追加できます。
- 10 [閉じる (Close)] をクリックします。

容量ライセンスのレポートのスケジュール設定

デフォルトでは、NetBackup は、nbdeployutil を指定のスケジュールで実行するようにトリガして、増分的にデータを収集し、ライセンスレポートを生成します。最初の実行については、構成ファイルで指定した間隔がレポートの期間として使用されます。

容量ライセンスのレポート期間は、収集データの可用性に応じて、常に過去 90 日分です。90 日分より前のデータはレポートで考慮されません。nbdeployutil が実行されるたびに、nbdeployutil の最新の実行と前回の正常な実行の間の情報が収集されます。

ライセンスレポートの場所

現在の容量ライセンスレポートは、次のディレクトリに存在します。

Windows の場合: `install_path\NetBackup\var\global\incremental`

UNIX の場合: `/usr/opensv/var/global/incremental`

以下のファイルが含まれます。

- nbdeployutil の最新の結果について生成されたレポート。
- 増分的に収集されたデータを含むフォルダ。
- 古い生成済みのレポートを含むアーカイブフォルダ。
- nbdeployutil ログファイル。

古いレポートはアーカイブフォルダに格納されます。90 日以上レポートデータを保持することをお勧めします。環境の要件に応じて、データは 90 日間より長く保持できます。古いレポートは、時間の経過とともに容量の使用状況がどのように変化したのかを示すのに役立つことがあります。レポートまたはフォルダは、不要になったときに削除します。

ユースケース I: ライセンスレポートのデフォルト値の使用

デフォルトパラメータを使う場合、nbdeployutilconfig.txt ファイルは不要です。容量ライセンスについて、nbdeployutil は次のデフォルト値を使います。

- `FREQUENCY_IN_DAYS=7`
- `MASTER_SERVERS=local_server`
- `PARENTDIR=folder_name`
Windows の場合: `install_path\NetBackup\var\global\incremental`
UNIX の場合: `/usr/opensv/var/global/incremental`
- `PURGE_INTERVAL=180` (日数)。

ユースケース II: ライセンスレポートのカスタム値の使用

nbdeployutilconfig.txt ファイルが存在しない場合は、次の形式を使用してファイルを作成します。

```
[NBDEPLOYUTIL_INCREMENTAL]
MASTER_SERVERS=<server_names>
FREQUENCY_IN_DAYS=7
PARENTDIR=<folder_name_with_path>
PURGE_INTERVAL=180
```

ライセンスレポートにカスタム値を使うには

- 1 nbdeployutilconfig.txt ファイルを次の場所にコピーします。
 Windows の場合: `install_path\NetBackup\var\global`
 UNIX の場合: `/usr/openv/var/global`
- 2 nbdeployutilconfig.txt ファイルを開きます。
- 3 レポートを作成する頻度に合わせて FREQUENCY_IN_DAYS の値を編集します。

デフォルト (推奨)	7	
最小値	1	
値が 0		増分レポートが無効になり、ライセンス情報は取得されなくなります。
パラメータの削除		nbdeployutil はデフォルト値を使います。

- 4 MASTER_SERVERS の値を編集して、レポートに含めるマスターサーバーのカンマ区切りのリストを含めるようにします。

メモ: Veritas Smart Meter では、マスターサーバーが NetBackup 8.1.2 以降に配置されている必要があります。

値なし	nbdeployutil はデフォルト値を使います。
パラメータの削除	nbdeployutil はデフォルト値を使います。

次に例を示します。

- MASTER_SERVERS=newserver,oldserver
- MASTER_SERVERS=newserver,oldserver.domain.com
- MASTER_SERVERS=myserver1.somedomain.com,newserver.domain.com

- 5 PARENTDIR の値を編集して、データを収集して報告する場所のフルパスを含めるようにします。

値なし nbdeployutil はデフォルト値を使います。

パラメータの削除 nbdeployutil はデフォルト値を使います。

- 6 PURGE_INTERVAL の値を編集して、レポートデータを削除する頻度を示す間隔 (日数) を指定します。180 日より古いデータは自動的にページされます。

デフォルト 180

最小値 90

値なし nbdeployutil はデフォルト値を使います。

パラメータの削除 nbdeployutil はデフォルト値を使います。

増分レポートのその他の構成

収集データと容量ライセンスレポートのディレクトリを変更するには

- 1 古い収集データとライセンスレポートが存在する場合は、該当するディレクトリ全体を新しい場所にコピーします。
- 2 nbdeployutilconfig.txt を編集し、PARENTDIR=*folder_name* フィールドで収集データとライセンスレポートの場所を変更します。

以前に収集されたデータを使用して容量ライセンスレポートを生成するには

- 1 直前の `nbdeployutil` の実行によって収集されたデータを保存するために生成されたフォルダを特定し、そのフォルダを次の場所にコピーします。

Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥var¥global¥incremental`

UNIX の場合: `/usr/opensv/var/global/incremental`

- 2 コピーしたフォルダ内に `gather_end.json` ファイルを作成し、次のテキストを追加します。

```
{"success":0}
```

次の増分の実行では、コピーしたフォルダ内のデータを考慮して容量ライセンスレポートが生成されます。

メモ: データの収集期間のギャップを回避するため、コピーしたフォルダ内の他のすべての収集フォルダを削除します。不足しているデータについては、時間の増分の実行で自動的に生成されます。

既存の収集データを使ってカスタムの間隔の容量ライセンスレポートを作成するには

- ◆ 90 日のデフォルトの間隔以外でレポートを作成するには、次のコマンドを入力します。

Windows の場合:

```
nbdeployutil.exe --capacity --incremental --report --inc-settings
"install_dir¥netbackup¥var¥global¥nbdeployutilconfig.txt"
--hoursago <custom-time-interval>
```

UNIX の場合:

```
nbdeployutil.exe --capacity --incremental --report --inc-settings
"/usr/opensv/var/global/nbdeployutilconfig.txt"
--hoursago <custom-time-interval>
```

`--hoursago` で指定する時間数は、`nbdeployutilconfig.txt` ファイルで指定している `purge-interval` 未満である必要があります。

メモ: `nbdeployutil` は収集データを使ってカスタムの間隔のレポートを生成しません。`--gather` オプションを使う必要はありません。

nbdeployutil と増分レポートのエラーのトラブルシューティング

- nbdeployutil がデータの収集と環境についてのレポートの生成に失敗することがあります。ログを参照して、タスクが失敗したタイミングとその理由を確認してください。
- ユーティリティを手動で実行した後、nbdeployutil が **bpimagelist** エラー (状態コード 37) で失敗することがあります。追加サーバーのリストにマスターサーバーが追加されていることを確認してください。
- **Oracle RAC (Real Application Clusters)** の場合、データのバックアップを作成するノードのサイズが報告されるため、保護データサイズが複数回報告されることがあります。
Oracle Real Application Clusters (RAC) のさまざまなノードでバックアップ操作を開始すると、容量ライセンスレポートの各行にすべてのノードが個別に表示されます。
- **Web** サービスの内部通信エラーにより次のエラーが表示されることがあります。
収集段階で **Web** サービスが中断されたため、正確なライセンス方式ではなくバックアップイメージヘッダーを使用して、マスターサーバー <サーバー名> のレポートが生成されています。(Report for master server SERVER_NAME is generated using the backup image header method instead of accurate licensing method because of web service interruptions during the gather phase.)
- **VMware** または **NDMP** では、バックアップエージェントがデータベースにライセンス情報をポストできなかった場合、アクティビティモニターに状態コード 5930 または 26 が表示されます。詳しくは、『[NetBackup 状態コードリファレンスガイド](#)』を参照してください。